

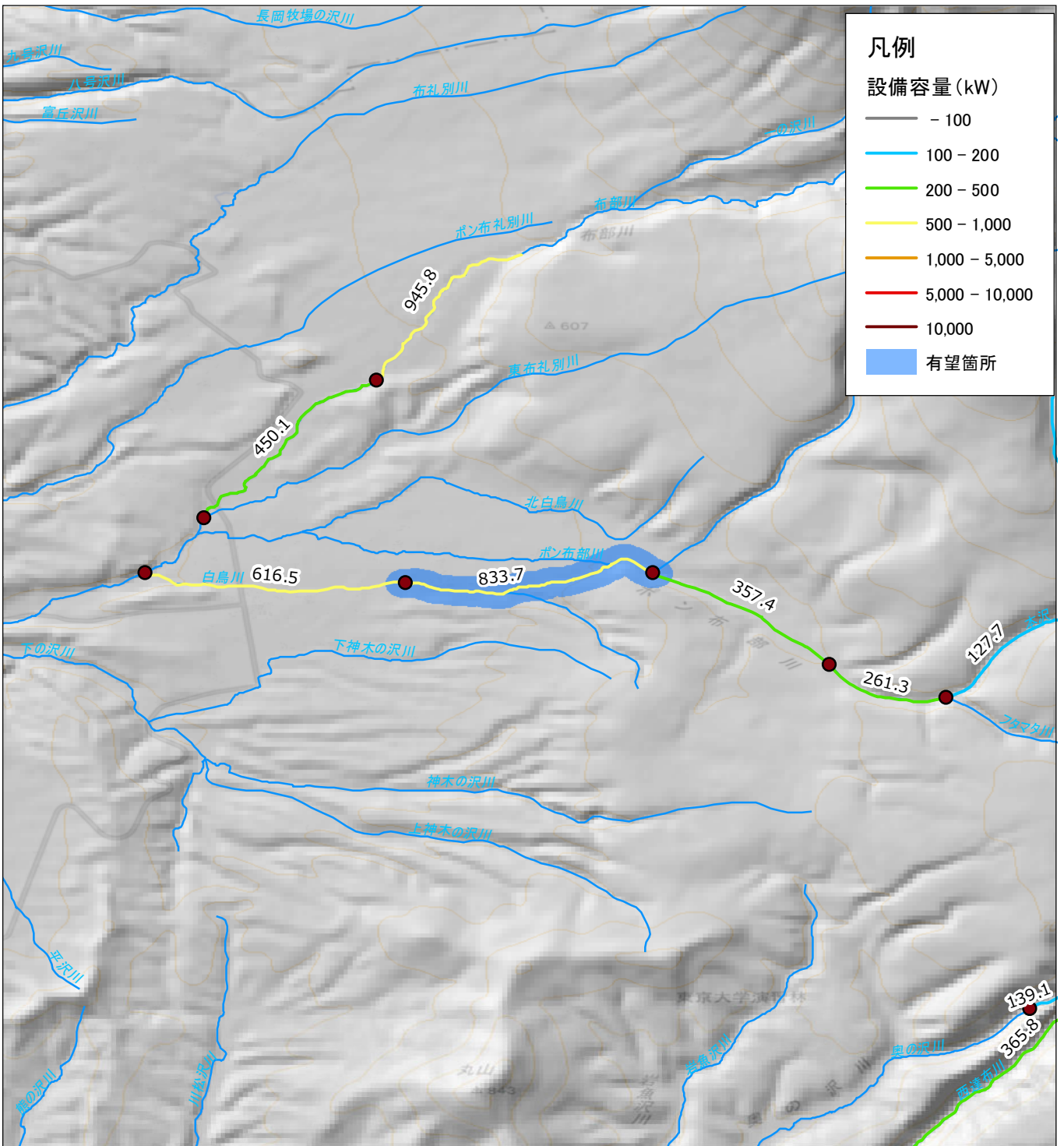
## 卷末資料

中小水力発電に係る有望仮想発電所のカルテ

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 1 北海道富良野市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。



作成者より コメント	扇状地で傾斜があり、流量も一定確保でき、道路アクセスも良い。 農業用水との調整が必要かもしれない。
---------------	--

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	北海道富良野市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	白鳥川	
有効落差	74.6 m	
設備容量	833.7 kW	
設備容量上の最大流量	1.58 m³/s	
年間発電電力量	490 万kWh/年	
概算工事費	1,141 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	金山ダム
所在地	北海道空知郡南富良野町
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

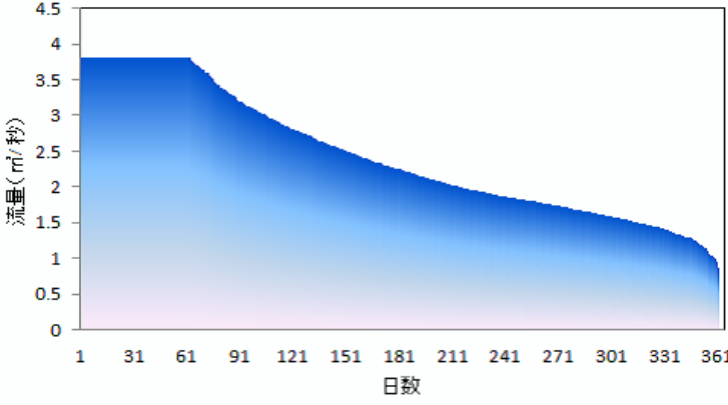
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。



作成者よりコメント	流量が多く傾斜もある。農業用水取水後の流量が充分あれば可能性が高い
-----------	-----------------------------------

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	岩手県八幡平市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	松川	
有効落差	66.4 m	
設備容量	1,786.1 kW	
設備容量上の最大流量	3.81 m³/s	
年間発電電力量	1,421万kWh/年	
概算工事費	1,950 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	四十四田ダム
所在地	岩手県盛岡市上田字松屋敷
参照した日流量データ	2002年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

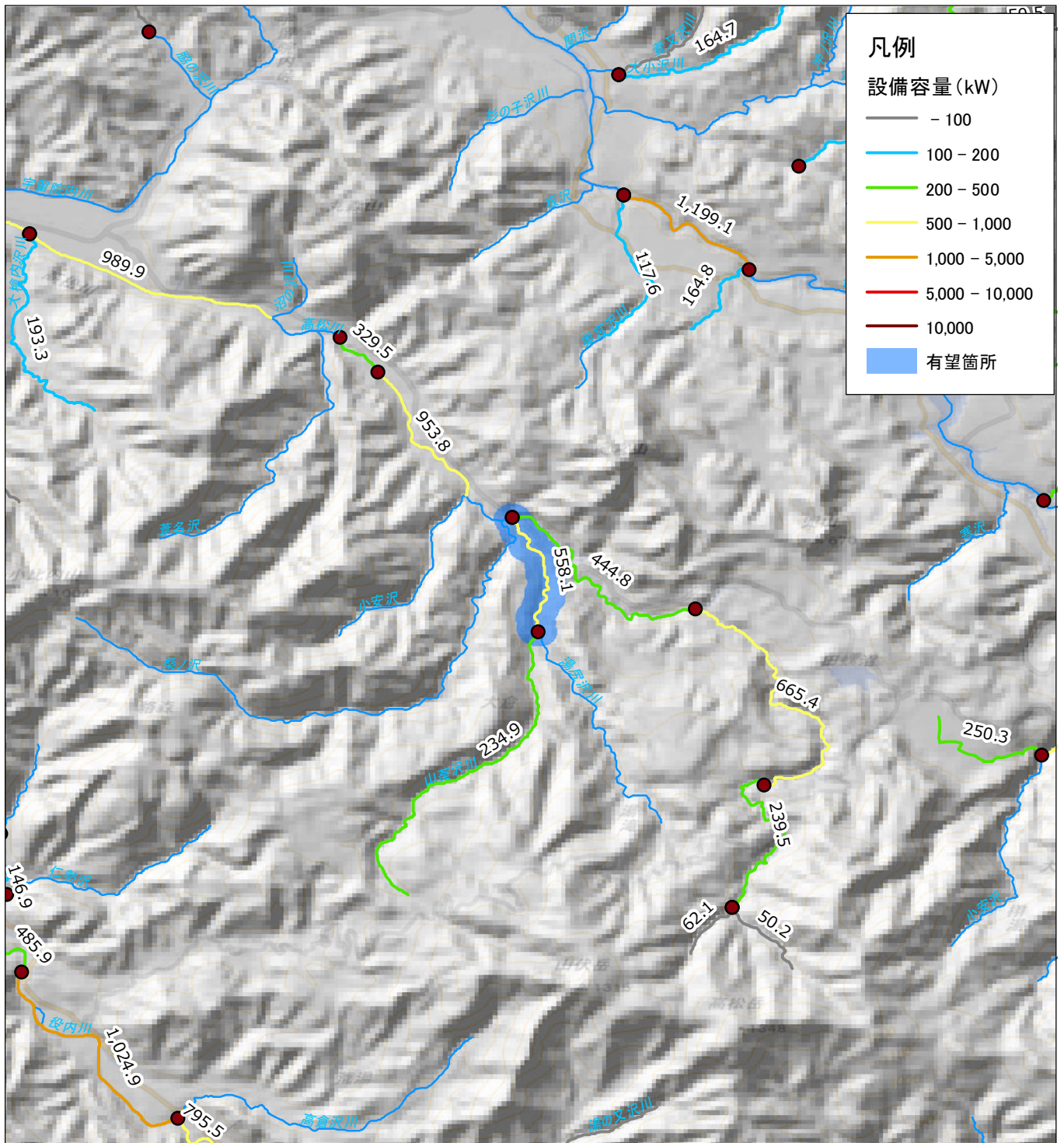
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 3 秋田県湯沢市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者よりコメント	山間地で落差があるが、谷が深いので取水地点や水路ルートが課題である。
-----------	------------------------------------

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	秋田県湯沢市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	高松川	
有効落差	102.3 m	
設備容量	558.1 kW	
設備容量上の最大流量	0.77 m³/s	
年間発電電力量	322 万kWh/年	
概算工事費	623 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	川井観測所
所在地	岩手県宮古市川井
参照した日流量データ	2002年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

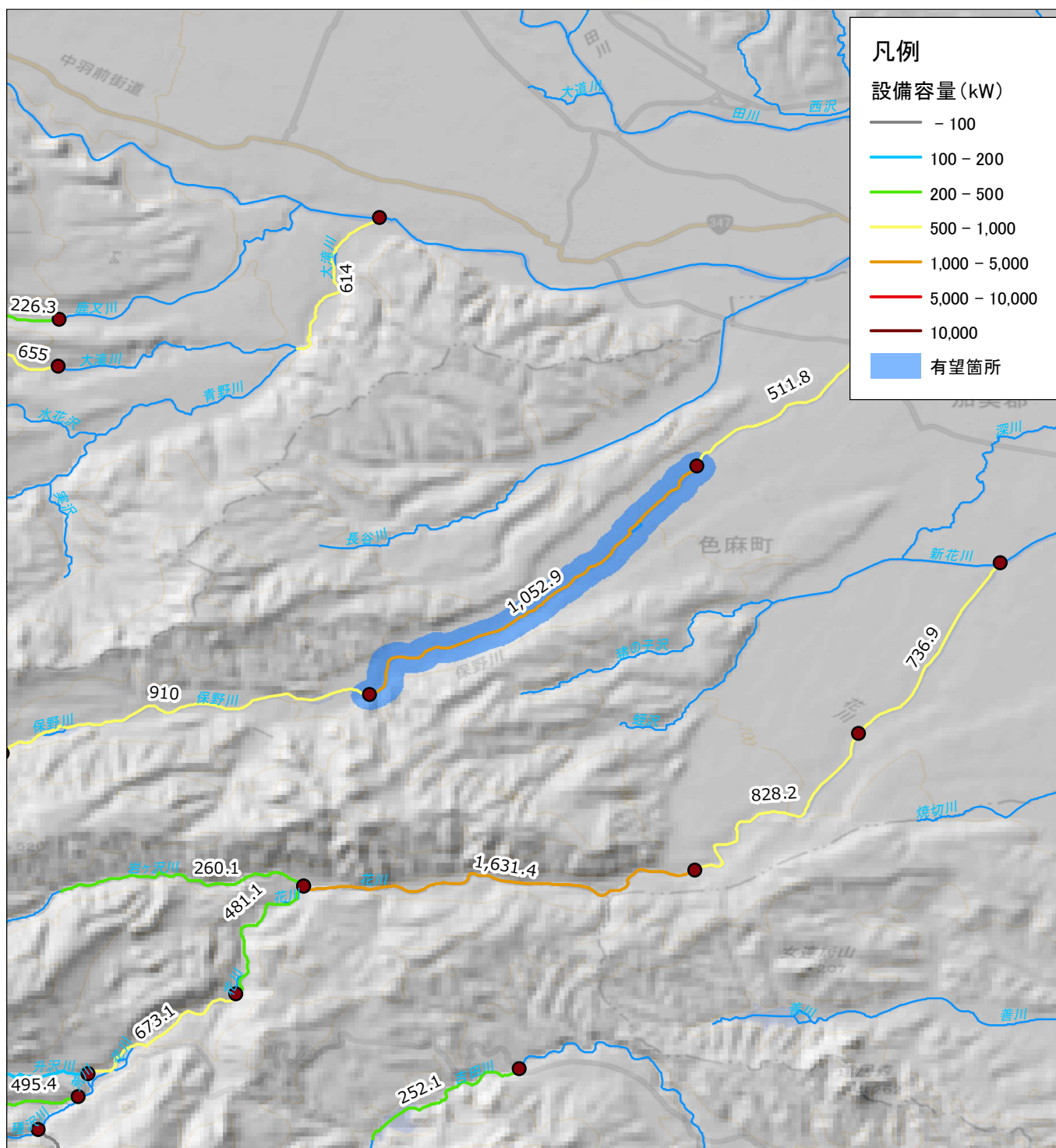
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 4 宮城県色麻町



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。



作成者より コメント	流量が一定程度あり傾斜もある。農業用水との調整が課題である。
---------------	--------------------------------

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	宮城県色麻町	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	保野川	
有効落差	85.1 m	
設備容量	1,052.9 kW	
設備容量上の最大流量	1.75 m³/s	
年間発電電力量	629 万kWh/年	
概算工事費	1,805 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	漆沢ダム
所在地	宮城県加美郡加美町字漆沢
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去 10 年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値**であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、**適地選定をする上で有用な情報**となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

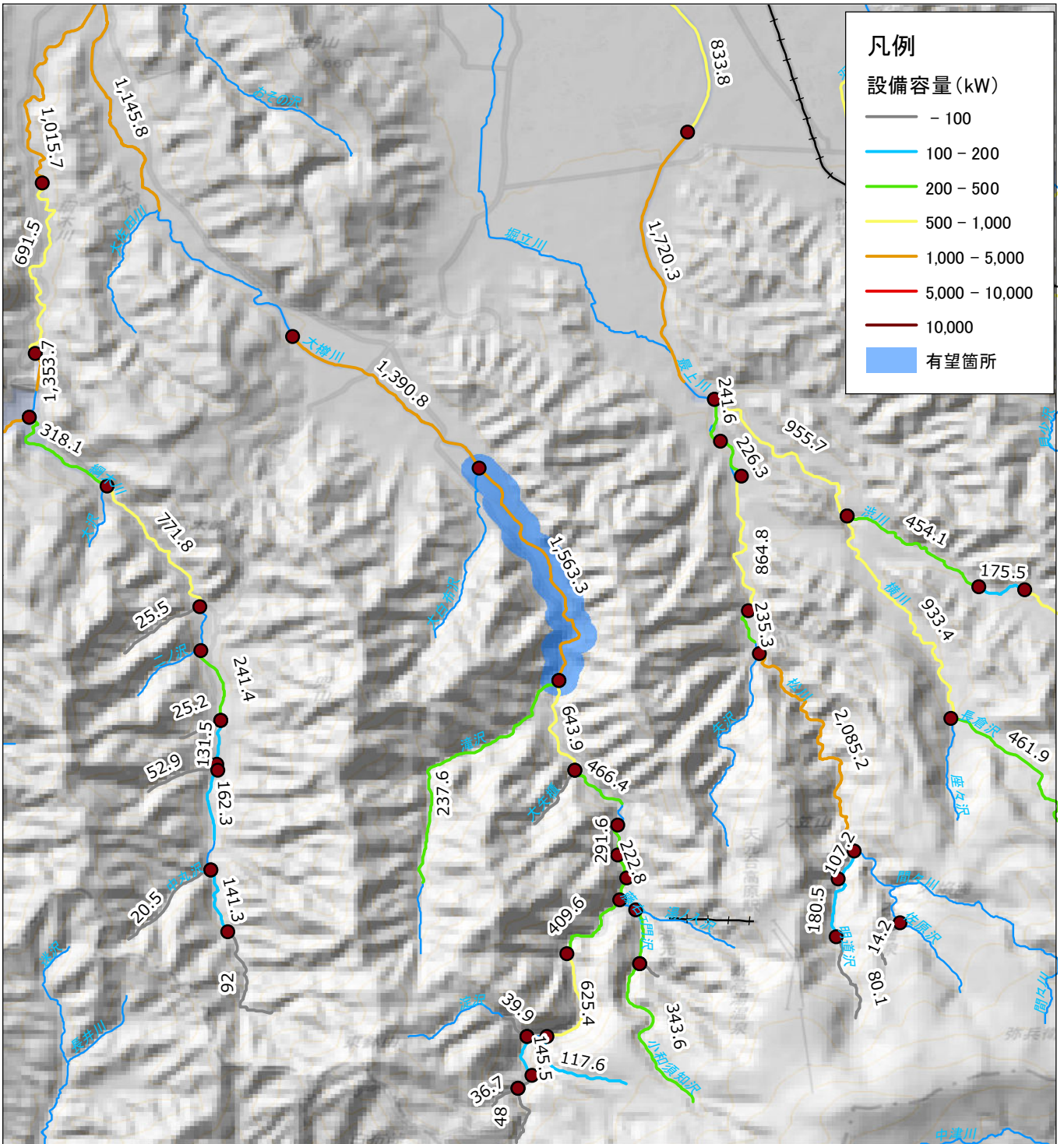
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウエアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 5 山形県米沢市



作成者よりコメント	流量・傾斜があり、道路アクセス、送電線アクセスもある。 山間地で大きな農業用水はない。
-----------	--

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	山形県米沢市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	大樽川	
有効落差	106.1 m	
設備容量	1,563.3 kW	
設備容量上の最大流量	2.09 m³/s	
年間発電電力量	925 万kWh/年	
概算工事費	1,609 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	白川ダム
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字高峰
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

**「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。**

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

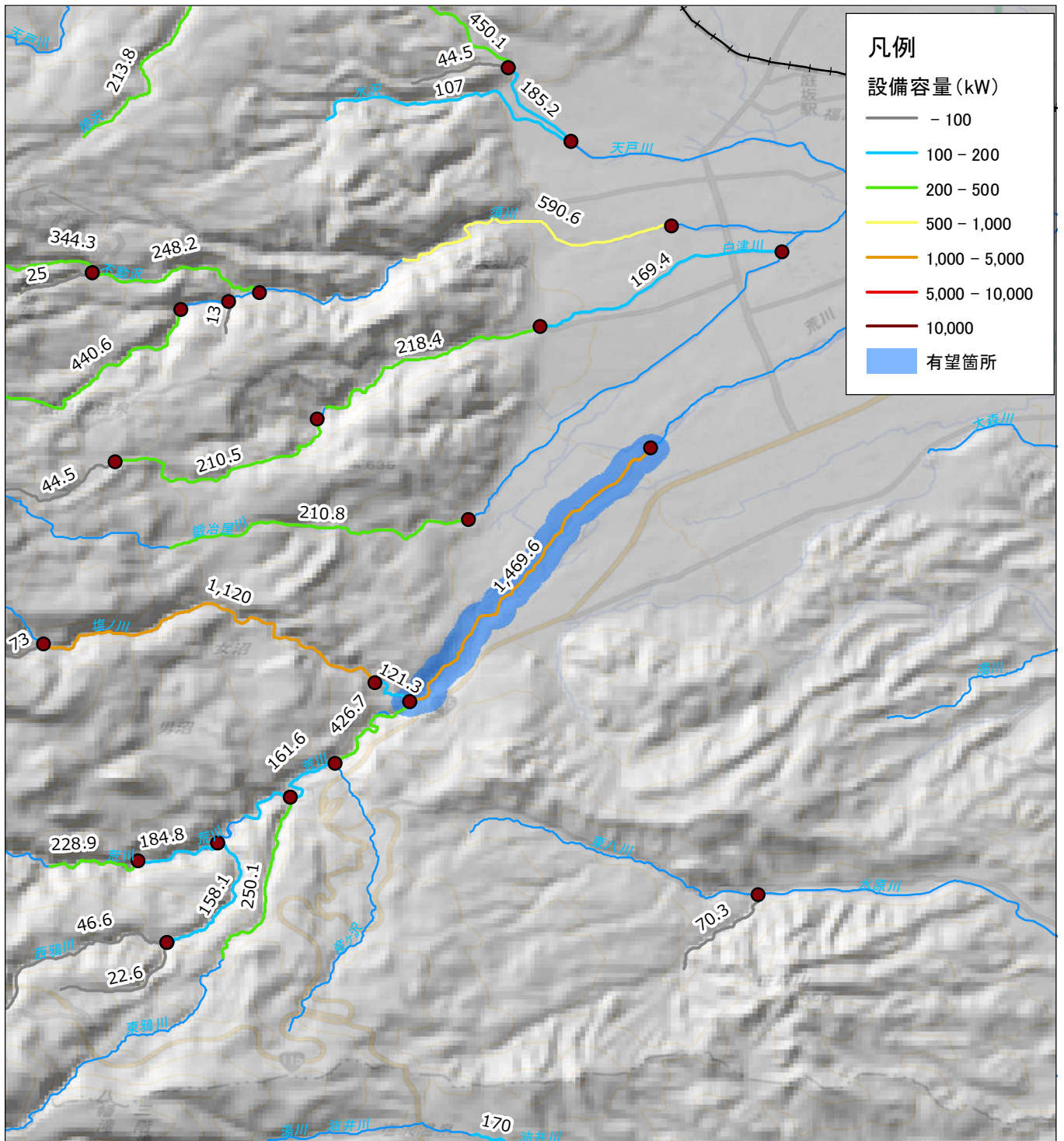
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 6 福島県福島市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	扇状地で傾斜があり、流量も一定確保できる。道路アクセス・水路ルートが課題である。
---------------	--

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	福島県福島市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	荒川	
有効落差	136.8 m	
設備容量	1,469.6 kW	
設備容量上の最大流量	1.52 m³/s	
年間発電電力量	919 万kWh/年	
概算工事費	1,636 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	三春ダム
所在地	福島県田村郡三春町大字西方字向山263番地先
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考え方で。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

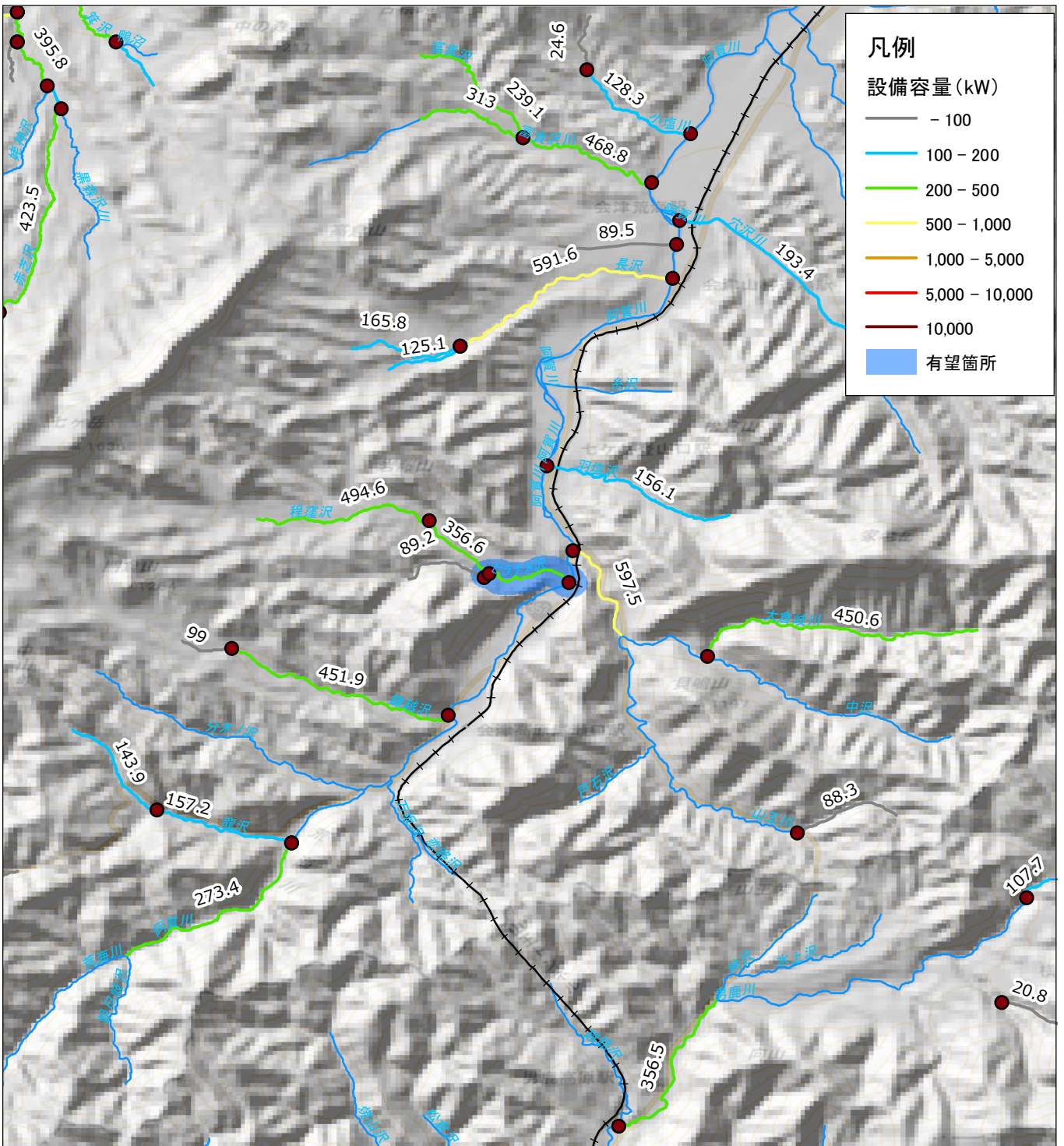
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 7 福島県南会津町



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者よりコメント	山間地で傾斜がある。道路アクセス・水路ルートが課題である。
-----------	-------------------------------

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	福島県南会津町	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	ヒラナメ沢	
有効落差	41.8 m	
設備容量	338.5 kW	
設備容量上の最大流量	1.15 m³/s	
年間発電電力量	383 万kWh/年	
概算工事費	570 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	田島ダム
所在地	福島県南会津郡南会津町高野字猿窪山
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ①「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、**実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。**

#### ②データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③中小水力発電開発のためのデータの使い方

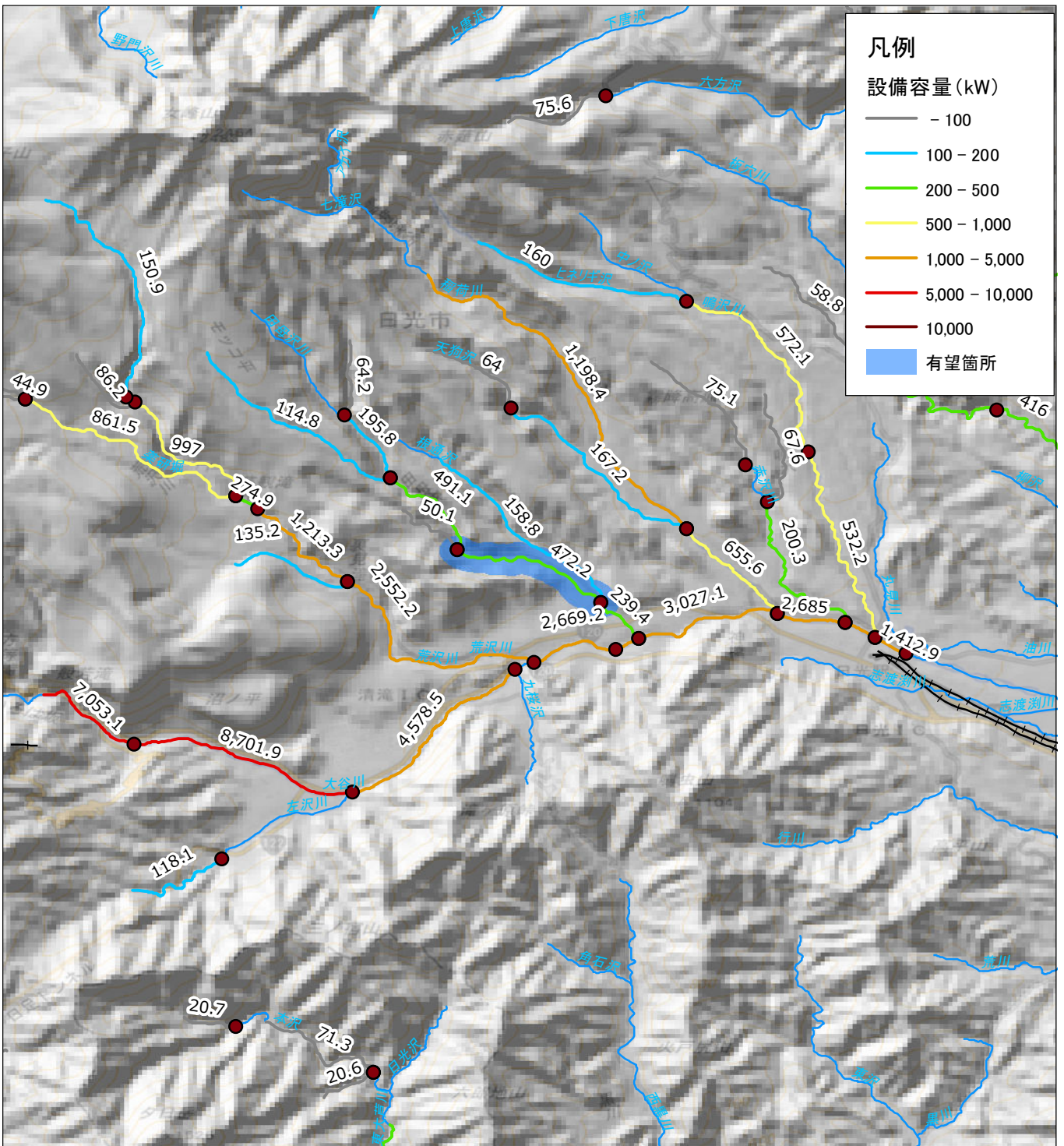
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 8 栃木県日光市



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。



作成者より コメント	勾配が大きく、道路アクセスもある。堰堤利用等取水が課題である。
---------------	---------------------------------

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	栃木県日光市	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	田母沢川	
有効落差	144.2 m	
設備容量	472.2 kW	
設備容量上の最大流量	0.46 m³/s	
年間発電電力量	1,880万kWh/年	
概算工事費	485 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	中禅寺ダム
所在地	栃木県日光市中宮祠
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

**「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。**

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

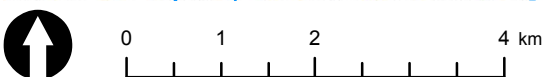
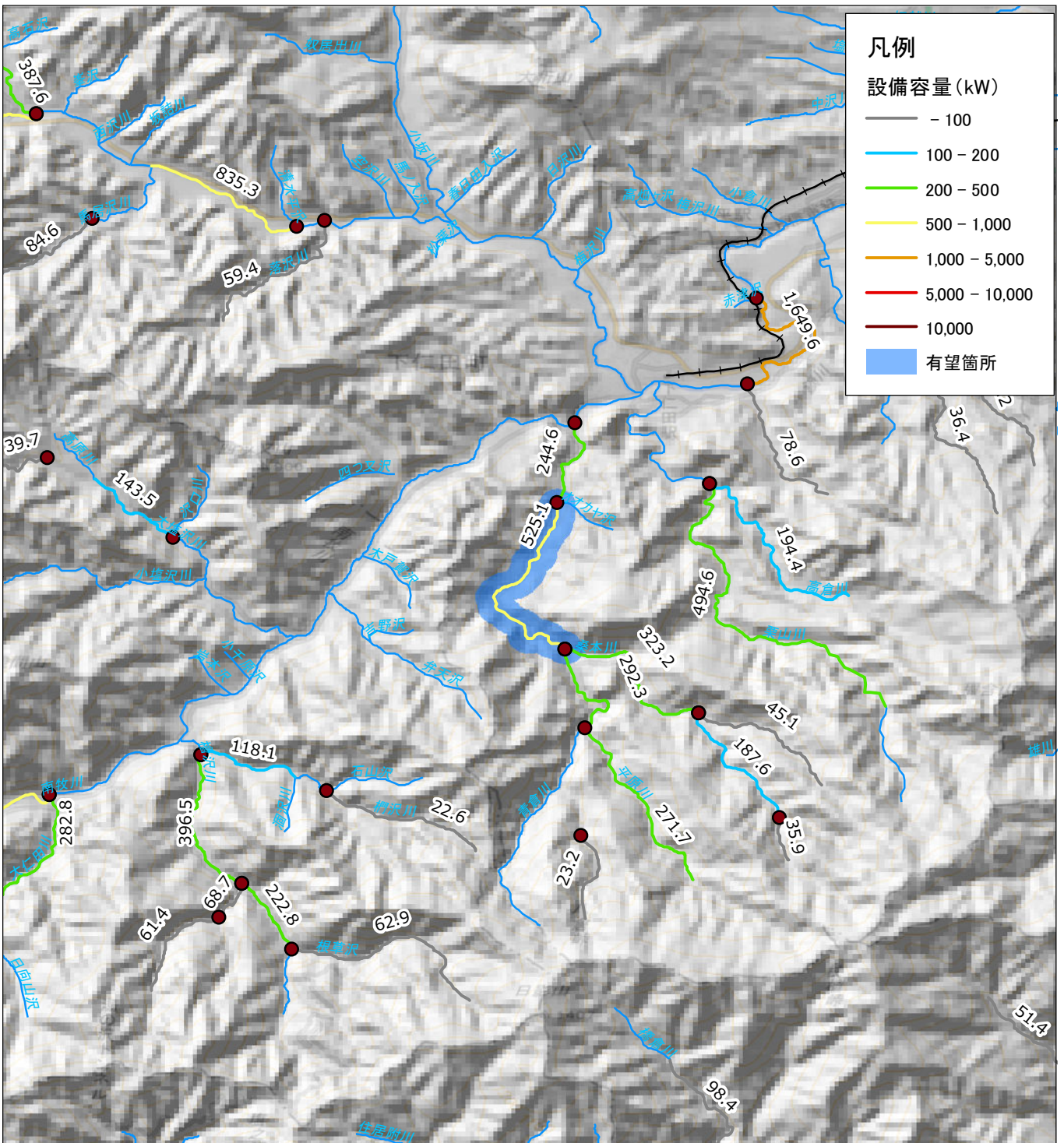
提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。

# 中小水力発電 カルテ

## (開発有望箇所調書)

### 9 群馬県下仁田町



図中の数値は、設備容量 (kW) を示します。

作成者より コメント	流量はあるが、勾配がやや緩く、人家との関係でルートが課題である。さらに上流の支流にも可能性がある。
---------------	---

## ● 仮想発電所諸元及び付近の流況

所在	群馬県下仁田町	推定流況曲線 <sup>注)</sup>
河川名	青倉川	
有効落差	96.2 m	
設備容量	525.1 kW	
設備容量上の最大流量	0.77 m³/s	
年間発電電力量	321 万kWh/年	
年間発電電力量	321 万kWh/年	
概算工事費	782 百万円	

注) 流況は、近傍の流量観測所・ダムの実測流量データ(下表)に基づいて推計したものです。

## ● 仮想発電所近傍の流量観測地点の情報

ダム・観測所名称	大仁田ダム
所在地	群馬県甘楽郡南牧村大字大仁田
参照した日流量データ	2003年～2012年

### 本カルテの説明、データの使い方

#### ① 「導入ポテンシャル」算定方法

中小水力発電の導入ポテンシャルは、以下の手順で計算しています。

- ・ 公開されている地形データ (10m メッシュ標高データ) から得られる河川の勾配と、既設の流量観測所において記録された過去10年分の日流量データを用い、河川の一定区間を「仮想発電所」と定義して発電賦存量 (設備容量: kW) を計算する。
- ・ 発電所の開発に要する概算工事費を推計し、発電単価を求めて、経済性のある仮想発電所を抽出する。
- ・ 中小水力発電開発の制約条件 (地形、法規制等) により、適切でない仮想発電所を除外する。
- ・ 上記によって残った仮想発電所の発電賦存量を、「導入ポテンシャル」とする。

「導入ポテンシャル」は、上記のとおり賦存量だけでなく、実際の開発にあたっての制約条件も加味して計算された値であり、これから中小水力発電の開発を検討される方にとって、適地選定をする上で有用な情報となりえます。

#### ② データの構成

仮想発電所は、一般に公開されている河川の線形データ (河道中心線) における、河川の合流点から合流点までを一つの発電単位として定義したものです。上流側の合流点を取水点、下流側の合流点を放水点 (発電所) として、流れ込み式の発電所が河川に設置されていると想定する考えです。

この考え方により、全国を対象に仮想発電所を設置することで、全国の発電賦存量、導入ポテンシャルを計算することができます。

#### ③ 中小水力発電開発のためのデータの使い方

提供するデータは、GIS (地理情報システム) の形式になっており、仮想発電所の位置情報に、上表の諸元情報が組み合わされたものになっています。発電を検討される箇所を任意に選定し、当該箇所の導入ポテンシャル、発電所を設置した場合の諸元情報を知ることができます。

データフォーマットは汎用性の高い Shape 形式ですので、フリーウェアを含めた多くの GIS ソフトで内容を確認、編集する等の使い方が可能です。